

2018年度

環境活動レポート



 太陽油脂株式会社



発行日：2019年06月30日

目次

1 組織の概要 P.3

2 対象範囲 P.3

3 環境方針 P.4

4 環境管理実施体制 P.4

5 環境目標 P.5

6 環境活動計画 P.5

7 環境目標の実績 P.6

8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組 P.8

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 P.9

10 代表者による全体評価と見直しの結果 P.9

11 その他環境活動報告 P.10

1 組織の概要

事業所名及び代表者名 太陽油脂株式会社
代表取締役社長 中山 悟

所在地 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7

環境管理責任者及び担当者連絡先 環境管理責任者：施設グループ GL 金井 一徳
TEL:045-441-4962 FAX:045-441-9671

事業の概要

①事業内容 加工油脂部門：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売
石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石鹸、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

②事業規模 生産量：70,251 t/年（加工油脂 68,952 t/年）
従業員数：260人（2019 / 4 現在）
延べ床面積：14,638.46㎡

2 対象範囲

認証・登録範囲 (2009年認証取得) ■加工油脂部門：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売
■石けん・化粧品部門：家庭用・業務用石鹸、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

レポートの対象期間及び発行日 対象期間：2018年04月01日～2019年03月31日
発行日：2019年06月30日



3 環境方針

A-KE002-03-0
改訂日 2016年 2月 25日

環境方針

太陽油脂は、「誠実をモットーに、確かな技術とつくり精神に裏付けられた、人と、地球に優しい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献します」と掲げた企業理念の下に、以下の環境方針を定めます。

1. 環境、社会との共生に視点をいたした企業活動

- 1-1、太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
- 1-2、太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。

2. 人と環境に優しい製品の提供

- 2-1、太陽油脂は、「人と、地球に優しい」に拘った食用油製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境に優しい生活」をも提供していきます。
- 2-2、太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を推進していきます。
- 2-3、太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境方針の全従業員への周知徹底を行い、全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推進していきます。

2017年 7月 24日

太陽油脂株式会社
代表取締役社長

中山 浩

当社は、2019年に創業100周年を迎えます。これもひとえにお客様、お取引関係者様のご支援ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。2018年度環境活動は、100周年を迎えるにあたり、当社が今後も継続的に発展し続けるための重要な一端を担っております。

「太陽の恵み、人にやさしく地球にやさしく」は当社の理念です。先人が築いてきた歴史に感謝し、英知と創意工夫を加え100年先も燦々と輝き続ける企業を目指して参ります。各事業に強化ポイントを設定し、環境活動の基となる環境方針を掲げます。

5 環境目標 (2017年度設置)

2013年度～2016年度までの実績を踏まえ、2017年度～2019年度の環境目標は以下の通りです。(尚、2016年度～2019年度の二酸化炭素排出係数(東電)は0.491(kg-CO2/kWh)を使用)

(年度：4月～3月 以下同じ)

製品生産量当たり	基準年度実績 2016年度	基準年度比 2017年度目標	基準年度比 2018年度目標	2019年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO2/t)	238.21	(基準年度比) 99.00%	(基準年度比) 97.58% (98.50%を見直す)	(基準年度比) 96.00%
廃棄物排出量 (t/t)	0.0350	98.00%	97.50%	97.00%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.0255	99.00%	98.50%	98.00%
食品リサイクル リサイクル率 (%)	97.37%	97.00%	97.00%	97.00%
排水量 (m3/t)	3.83	(基準年度比) 86.29%	(基準年度比) 81.10%	(基準年度比) 72.80%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0502	(基準年度比) 99.00%	(基準年度比) 98.00%	(基準年度比) 97.00%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具の グリーン購入実施率)	(29.7%)	91.47%	94.47%	96.47%
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	84%	75%	75%	75%
地域とのコミュニケーション (石鹸学習会など)	(77回/年) 回数から参加人数に変更	2000人/年	2100人/年	2200人/年

6 環境活動計画 (2018年度)

環境活動計画	取り組み内容
二酸化炭素排出量削減 <東電：排出係数 0.491kg-CO2/kWh> 2016年度比：97.58%	<ul style="list-style-type: none"> ① 事務所用蛍光灯及び屋外灯を計画的にLED照明に更新する。 ② 全社節電対策(昼休み部分消灯等)6月～10月。クールビズの実施。 ③ 空調の温度管理を徹底する。 夏(6月～9月)27～28℃設定 冬(12月～3月)20～22℃設定 ④ 設備の計画保全を広く実施し、工程停止(チョコ停)・ロス削減につなげる。
都市ガス使用量 原単位削減 2017年度比：99.0%	<ul style="list-style-type: none"> ① スチームサイクロンを導入し、熱効率を向上する。 ② 蒸気漏れによる熱エネルギーロスの低減。 ③ 加熱温度適正化による蒸気使用量削減。 ④ ドラム溶解蒸気削減。 ⑤ 温水装置の間接加熱を直接加熱に一部変更する。
廃棄物総排出量削減 2016年度比：97.5%	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般廃棄物の分別徹底で単純焼却ごみを削減する。 ② 紙の使用量削減(縮小コピーや両面コピー実施、FAXのメール送信化) ③ ゴミの持ち帰り(購入弁当など)
食品廃棄物発生抑制 2016年度比(98.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ① 品目を選定し投入白土減を推進 ② 小集団活動取組みにて廃白土量を削減する。 ③ 小集団活動取組みにて不適合品を削減する。(廃油、廃脂肪酸量削減)
食品廃棄物発生抑制 2016年度比(98.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ① 加工温度の過剰上昇抑制 ② 賞味期限切れ製品を削減する。(無駄のない生産計画) ③ 小集団活動取組みにて不適合品を削減する。(廃油、廃脂肪酸量削減)
食品リサイクル率 (97%以上)	① 再資源化率を監視し、食品リサイクル率97%以上を継続維持する。
総排水量削減 2016年度比 (81.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ① 水道栓の交換(ワンタッチ式へ変更) ② 冷却水の循環利用 ③ 洗浄方法の見直しや洗浄水の適正使用により水使用量を削減する ④ 冷却水の有効利用(再利用)
化学物質使用量削減	① 使用量適正管理により2016年度使用量原単位比：98.0%以下にする。
グリーン購入推進	<ul style="list-style-type: none"> ① グリーン購入対象品リストに従って、事務用品・文具を購入する。 ② 購入部署はリストにある備品購入へ誘導する。
環境配慮設計	石けん化粧品事業 ① 化学物質を使用せず石鹸をベースにした商品開発 ② RSPPOロゴマークを表示したシャンプー、リンス等の販売
地域とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ① 工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会を開催する。 ② 地域清掃活動の継続実施(本社工場～入江橋周辺)

4 環境管理実施体制



実施体制役割説明

代表者(社長)：環境経営システムの構築・運用に必要な経営資源を準備する
 環境経営に関する、基本理念、長期戦略及び基本方針等に基づき、環境方針を定める
 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営システムの見直しを行う
 環境管理責任者：環境負荷と環境への取組状況の把握と評価を行い、結果を社長に報告する
 環境関連法規等の取りまとめを行い、結果を社長に報告する
 環境目標及び環境活動計画の策定を行い、社長の承認を得る
 各部門(部署)の「環境活動計画・実施状況・評価表」を承認し、活動の推進を図る
 EA21事務局：環境管理責任者を補佐し、全社環境関連データの集計及び管理保管を行う
 ユーティリティー削減チーム：ユーティリティー関係の全社活動目標設定と削減活動の進捗管理を行う
 >二酸化炭素排出削減：(電気使用量・ガス使用量・蒸気使用量)、
 並びに、総排水量削減：(上水使用量・工業使用量、雨水対策)
 廃棄物削減チーム：廃棄物関係の全社活動目標設定、削減活動計画立案及び進捗管理を行う

グリーン購入推進チーム：グリーン購入推進および製品・サービスにおける環境配慮の推進
 に関する全社活動目標設定、推進活動計画立案及び進捗管理を行う
 各部門長：部門(部署)の環境経営システムの構築・運用の責任者としてその任に当たる
 (各部署)の従事者に対して、環境経営システムに関する教育・訓練を行う
 自部門(部署)の「環境活動計画・実施状況・評価表」を作成し、推進する
 環境活動推進委員：部門(部署)長を補佐し部門(部署)の環境経営システムの事務局として
 事務手続き等の実施を遂行する
 全従業員：部門(部署)の推進委員を補佐し部門(部署)の環境経営システムの事務手続き等の
 実施を遂行する
 部門(部署)の環境経営システムを理解し食品リサイクル及び環境問題を継続的に改善する
 活動を行う

7 環境目標の実績

① 二酸化炭素排出量原単位：Kg-CO2 / t

(2016年度：238.21)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)：2016比	—	99.00	97.58	96.0
年度実績 (%)：2016比	—	95.51	94.59	—
評価	基準	○	○	—
CO2排出量 (t)	15,282	15,239	15,829	—

② 総廃棄物量原単位：t / t

(2016年度：0.035)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	98.00	97.50	97.0
年度実績 (%)：2016比	—	100.10	99.88	—
評価	基準	未達成	未達成	—

③ 食品廃棄物発生量原単位：t / t

(2016年度：0.0255)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	99.00	98.50	98.0
年度実績 (%)：2016比	—	100.39	96.03	—
評価	基準	未達成	○	—

④ 食品リサイクル率 (%)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	97.00	97.00	97.0
年度実績 (%)	97.37	97.10	97.11	—
評価	基準	○	○	—

⑤ 総排水量原単位：m³ / t

(2016年度：3.8304)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)：2016比	—	86.29	81.10	72.80
年度実績 (%)：2016比	—	91.79	80.99	—
評価	基準	未達成	○	—

⑥ 化学物質使用量原単位：kg / t

(2016年度：0.0502)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)：2016比	—	99.00	98.00	97.00
年度実績 (%)：2016比	—	97.56	98.11	—
評価	基準	○	△	—

⑦ グリーン購入実施率 (%) (作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	現状調査	94.47	96.47
年度実績 (%)	—	91.47	91.63	—
評価	—	○	未達成	—

⑧ 環境配慮設計 (石けん化粧品事業)：品/品・年

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%)	—	75.0	75.0	75.0
年度実績 (%)	84.0	100.0	100.0	—
評価	基準	○	○	—

⑨ 地域とのコミュニケーション (石けん学習会など)：人/年

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (人/年)	—	2,000	2,100	2,200
年度実績 (人/年)	—	1,542	1,926	—
評価	—	未達成	△	—



8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組

環境活動計画		取組結果とその評価・次年度の取組	
二酸化炭素排出量削減 <東電：排出係数> 0.491kg-CO2/kWh 目標 2016年度比：97.58% (旧2016年度比：98.50%) 結果 2016年度比 (94.59%) (評価：○達成)	電気使用量 原単位削減 2017年度比：99.0% (旧2016年度比：99.0%)	目標 (2017年度比：99.0%) ⇒結果 (99.0%) (2018年度評価：○達成) <次年度取組> ① 消灯やクーリングなど無駄な電気使用削減の取組を継続実施する。 ② 小集団活動取組みにて不適合発生時の削減や製造条件の見直しをする事で無駄な又は過剰なエネルギー使用を削減する。 ③ 設備の計画保全を実施し設備起因のロス削減する。	
	都市ガス使用量 原単位削減 2017年度比：99.0% (旧2016年度比：98.7%)	目標 (2017年度比：99.0%) ⇒結果 (98.8%) (2018年度評価：○達成) <次年度取組> ① 作業改善・加熱温度適正化により蒸気の使用量を削減する。 ② 不適合発生を削減し、再製造等で発生する無駄なエネルギー使用を削減する。 ③ 蒸気の改質による省エネの実施。	
廃棄物排出量削減 目標：2016年度比 (97.5%) 結果 (99.88%) (評価：未達成)	一般廃棄物排出量 原単位削減 2016年度原単位 比：97.5%以下	目標 (2016年度比：97.5%) ⇒結果 (93.82%) (2018年度評価：○達成) <次年度取組> ① ごみの分別徹底と廃棄されているごみのリサイクルを推進する(秤設置)。 ② マイ箸の推進や弁当容器などの持ち帰り推奨で廃棄物を減らす。	
	廃白土量削減 2016年度比：44t減	目標 (2016年度比：4.4 t減) ⇒結果 (+204.90 t) (2018年度評価：×未達成) <次年度取組> ① 廃白土原単位削減取組実施。 ② 基準の見直し(2017-2018年と製品構成・配合変更があり白土量増となった為)	
食品廃棄物 発生抑制 目標：2016年度比 (98.50%) 結果 (96.03%) (評価：○達成)	食品廃棄物 発生量削減 2016年度比：98.5%	目標 (2016年度比：98.50%) ⇒結果 (96.03%) (2018年度評価：○達成) <次年度取組> ① 小集団活動取組(収率UPなど)を継続実施し食品廃棄物を削減する。	
	食品リサイクル率 97.00%以上	目標 (97.00%) ⇒結果 (97.11%) (2018年度評価：○達成) <次年度取組> ① 再資源化率の監視活動を継続実施する。	
総排水量削減 目標：2016年度比 (81.10%) 結果 (80.99%) (評価：○達成)	水使用量 原単位削減 2016年度比：81.10%	目標 (2016年度比：81.10%) ⇒結果 (80.99%) (2018年度評価：○達成) <次年度取組> ① 冷却水を計画的に循環方式に変更する。	
化学物質使用量削減 (評価：○達成)	化学物質使用量原単位 2016年度 比：98.00%以下	目標 (2016年度比：98.00%) ⇒結果 (98.11%) (2018年度評価：△概ね達成) <次年度取組> ① 使用量適正管理を継続実施する。	
グリーン 購入推進 (評価：×未達成)	グリーン購入 実施率推進 2017年度実施率 91.47+3.0%：94.47%	目標 (94.47%以上) ⇒結果 (91.63%) (2018年度評価：×未達成) <次年度取組> ① グリーン購入対象品をリスト化(明確化)すると共に運用手順書を周知する。 ② グリーン購入実施率の計算方法を金額ベースに変更。初年度+3%UPさせる。	
環境配慮設計 (評価：○達成)	環境配慮設計 75%以上 石けん化粧品事業	目標 (75%以上) ⇒結果 (100%) (2018年度評価：○達成) <次年度取組> ① 更に環境配慮要素を追加した製品化率75%以上を維持する。	
地域とのコミュニケーション (評価：×未達成)	地域との コミュニケーション (2,100人/年)	目標 (2,100人/年) ⇒ 結果 (1,926人/年) (2018年度評価：△概ね達成) <次年度取組> ① 工場見学会、手作り石けん教室の参加人数で継続集計。 ② 本社工場周辺の清掃活動を継続実施する。	

評価について ○：達成 △：目標値達成
 △：あと一歩：取り組み開始されており、目標値に達していないが概ね(達成率80%程度)削減減いは抑制効果が確認されている
 ×：未達成 △：目標値未達成(80%未満)

1) 主要な取り組みの総括評価

各部門の年次の業務目標をエコアクション21の環境活動につなげて運用実施。生産性向上やコストダウンとなる省エネルギー活動は順調に進み原単位目標につながったと言えます。廃棄物削減は、分別の運用改善や製造の収率UPがあり、一般廃棄物の原単位減とできましたが、総廃棄物は、油脂精製の白土量増の影響が大きく、2019年度は2018年度実績を基準に削減目標を修正していきます。次年度も部門部署の業務目標を、環境活動に連携させて目標達成につなげたいと思います。

・年次計画とのつながりとして(例)

- 全社・・・仕事効率の向上は働き方改革と省エネに貢献、在庫の適正化は不適合発生削減になる。
- 工場系・・・製品の収率向上やロス削減、時短対策は、原単位改善・廃棄物削減になる。
- 事務系・・・電子情報を使った情報伝達で印刷物の減と仕事効率の向上になる。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1) 適用法令等の順守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者(同代理者)選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者(同代理者)選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者(同代理者)選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、ガスタービン、悪臭	「ばい煙発生施設(使用、変更)届出書」排煙(Noxの許容限度)の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例(横浜市環境保全協定含む)		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回Nox測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法		「特定施設設置(使用、変更)届出書」、「特定施設使用等開始報告書」排水規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例(横浜市環境保全協定含む)	排水処理設備	公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対応	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場立地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」「指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書」	○
	指定可燃物(タンク)	年2回の消防用設備定期点検。	
	少量危険物(薬品庫)	「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告書」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、スロープ等	「整備基準適合証」	○
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附属義務駐車施設(設置、変更)届出書」	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRT法)	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサ	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書(保管事業者用)」	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例(規則)	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検(1回/3ヶ月以上)・有資格者による定期点検(7.5kw以上)	○
省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)	全社	CO2換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告(省エネ法定期報告で代用)	○
温対法(地球温暖化対策の推進に関する法律)	全社	「エネルギー管理統括者/エネルギー管理企画推進者選任届出書」、「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」(1%以上/年平均のエネルギー消費原単位低減努力)	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」(財)日本容器包装リサイクル協会	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断(特殊検診含む)、有機溶剤中毒予防規則の遵守・・・問題なし	○

2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去、3年間ありませんでした。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

太陽油脂は、2009年にエコアクション21認証・登録を行い、この活動を始めてから10年になります。目標値に対し、達成・未達成はありますが、エコアクション21を通じて環境負荷の低減・法令遵守など真摯に取り組んできた経緯は評価できるものです。特に、環境負荷のエネルギー消費(CO2)量の削減は地球規模の課題であって、太陽油脂はこの3ヵ年計画では原単位で目標以上の実績が示せたことは有益です。廃棄物削減が課題ですが、食品ロスに通じる課題なので、現在の基準を確認・評価し目標達成できる活動としてください。10年間の活動結果に自信をもって、更にと地球にやさしい企業であり続けるよう邁進してください。

- 温室効果ガス削減(脱フロン)・・・エネルギー起源のCO2削減は継続するものとして、温室効果ガスで課題となっているフロンガスの使用を無くす取り組み(脱フロン)を積極的に推進すること。空調・冷凍機が対象になるので、計画的に削減するよう活動に取りこむこと。
- 廃棄物の削減・・・近年の製品構成の変化で増加傾向となっておりますが、2018年度でほぼ完了したので、これを基準にして新たな目標設定を行い、削減対象とするターゲットを明確にし成果が見える活動にすること。
- 活動のアピール・・・10年行ってきたエコアクション21の活動は、各所で成果を上げ、環境・地域に貢献しています。またRSPOの取り組みや、横浜市環境活動との連携など全員参加でEA21活動を意識し取り組んできた結果ですから、自信をもって社内外にアピールし、活動自体を盛り上げていくこと。
- 100周年活動として・・・創業100周年の2019年度は、すべての目標を達成する有意義な1年にすること。業務目標とEA21目標は広義では連携しているが、日々の従業員のコミュニケーションやミーティングで周知や教育が行われる習慣付けまで至っていないので、この部分の強化を図ること。



◎環境配慮設計商品の開発発売

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境に配慮し、肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。太陽油脂石けん・化粧品開発グループでは、環境にやさしい石けん・化粧品製品を毎年開発しております。

本年度は2019年に当社が創業100周年を迎えるに先立ち、100周年記念バックスナチュロンハンドクリームを新発売しました。また、Amazon.co.jp限定で、バックスナチュロンシャンプー、バックスナチュロンリンス、バックスナチュロンボディソープでそれぞれ詰替用900ml 大容量タイプを発売しました。本年度に開発した商品は、全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては、『JONA認証準会員』のもと、JONA認証工場と一部JONA認証商品を取得しております。

環境配慮設計の基準

- ① P R T R 指定物質、医薬部外品の表示指定成分の有害性の指摘のある合成化学物質は使用せず、石けんなどの生分解性の良い原料を使用する。
- ② 商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造する。
- ③ 梱包用の段ボールなどリサイクルできる素材を採用し、廃棄時に有害物質を排出するプラスチック素材は使用しない。

環境配慮商品

● 2018年度新製品



100周年記念バックスナチュロン
ハンドクリーム
(左から、イランイラン&スズラン、ライム&カシス、
ローズ&アプリコット)



Amazon.co.jp限定 (左から)
バックスナチュロンシャンプー詰替用900ml 大容量タイプ
バックスナチュロンリンス詰替用900ml 大容量タイプ
バックスナチュロンボディソープ詰替用900ml 大容量タイプ

◎RSPO普及活動

太陽油脂は、2011年にRSPO(*)の正会員(国内11社目)となり、現在に至るまで、RSPOの認証を受けた原料の購入と、その重要性をアピールしてきました。(2019/2月:正会員・準会員・賛助会員の総計推移、世界4,004社←3,379社、日本127社←57社)RSPOの認知度が高まるに従いお客様からの問い合わせが増えています。これらの対応含め、各所で説明会を開催しています。今後もRSPOの重要性を踏まえ、企業理念の「人と地球にやさしい」製品を提供していきます。

(RSPO更新審査:2018/8、継続中)

説明会開催・・・6件/年(対象:企業)

太陽油脂の進捗状況はwww.rspo.orgを参照ください(英文サイト)。
(太陽油脂情報は、
https://www.rspo.org/members/779/Taiyo-Yushi-Corpにて)



包材にプリント



(*) RSPO

(Roundtable on Sustainable Palm Oil)・・・持続可能なパーム油のための円卓会議
世界各地で増えたパーム油の需要により、生産地域の熱帯林が開拓のために伐採が進むなどそこに生息する生物の多様性、森林に依存する人々の暮らしに深刻な悪影響が発生している。熱帯林の保全や生産地域の生活環境に配慮し、持続可能なパーム油の利用を促進する非営利組織

◎環境活動のアピール

横浜市の取り組み「Earth Hour in Yokohama」に、2017年より当社は参加しています。昨年に続き、2019年3月に工場内のライトダウン(20:30~21:30)を実施しました。また、2018年12月に行われた「横浜市内の協力施設とスターバックス店舗のライトダウンイベント"Nothing" is "Charming"」にも参加し、イベントポスターの社内掲示と工場内ライトダウン(19:30~19:40)を実施しました。

今後も地域の環境への取り組み、人と地球にやさしい活動に参加していきます。

◎地域への貢献

●石けん講座、工場見学会

太陽油脂は一般の個人の方や団体の方に向けて、石けん工場見学会を行っています。地域の皆様、学校、環境団体、NPO法人、生協などからの申し込みを受けて実施した出張石けん講座・手作り石けん教室、工場見学会は、2017年度は83回、2018年度は84回実施しました。2018年度は、人気ワークショップの『手ごね石けん』の内容を見直し、オリジナリティ溢れる石けん作りが可能になりました。

2019年度は夏休み等、親子で参加できるワークショップを強化し、石けん製品をより身近に親しんでいただくと共に、一個の石けんから地球環境を考え、持続可能な社会実現に貢献する取り組みとして、活動を実施していきます。

〈内容〉

- ① 植物油（オリーブ・パーム油など）とアルカリをペットボトルに入れて作る、振る石けん作り体験（お子様向けには石けんチップをこねて飾り付けする、手ごね石けん作り体験）
- ② 石けんの起源から現代的な使用方法までよくわかる、石けん基礎講座
- ③ 実験による石けんの性質の確認（汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ）
- ④ 製品を身近に感じることができる石けん工場の見学



〈対象(参加団体)〉

- ・生協（バルシステム生活協同組合連合会、コープ自然派事業連合、ナチュラルコープヨコハマ、なのはな生協、グリーンコープ連合など）
- ・行政・学校（子安小学校、神奈川小学校、西東京市役所など）
- ・共同購入・店舗（大地を守る会など）
- ・一般団体（NPO法人、消費者団体など）
- ・一般消費者（個人参加）

〈石けん教室の様子〉



※地域の小学校の総合学習の一環として、「石けん教室」を開催しています。クイズを交えた石けんのお話や、石けん作り、性質がよくわかる実験を通して、子供たちが楽しみながら環境についての学習ができたのではと思っています。

●地域清掃

地域貢献活動として、太陽油脂から国道までの道路周辺を毎週清掃活動しております。2018年度は52回実施しました。（2016年度は49回、2017年度は47回）



= 清掃範囲(国道から正門まで)



↑ 清掃活動の風景

●町内会への協力

毎年夏に行われる町内会イベントへ、協賛品として「パックスナチュロンキッチンスポンジ」と、「パックスナチュロンクリームソープ（固形石けん）」それぞれ3ケースを寄付しました。

町内会イベントでは、主にお祭りの準備・運営・後片付けに参加し、地域活性化への協力を行いました。（近隣の3箇所の町内会活動に参加しています）

◎後述

太陽油脂は、この地に立ってからの事業の歴史を振り返ると、2019年には創業100周年となる企業でございます。多くのお取引先様、消費者の皆様を支えられ今日まで事業活動を続けられますことを心より感謝申し上げます。

今後も、「本物を追求する」・「自然と共存する」ということに拘り、持続可能な発展に向けた企業活動を継続してまいります。そして世の中から選んでいただける価値を提供し続けてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創会社沿革

- 1919年（大正8年）、 東京搾油株式会社として発足（主として南洋特産コブラの搾油）
- 1936年（昭和11年）、 南洋貿易株式会社と合併
- 1939年（昭和14年）、 石けんの生産開始
- 1947年（昭和22年）、 太陽油脂株式会社として創立
- 1948年（昭和23年）、 石けんシャンプーの商標を「ボックス」に決定
- 1950年（昭和25年）、 我が国初のショートニング製造実用化と販売開始
- 1970年（昭和45年）、 ペストリー・パイ用シートマーガリン販売開始
- 1971年（昭和46年）、 鐘淵化学工業株式会社（現 株式会社カネカ）と業務提携
- 1972年（昭和47年）、 ホイップクリーム用シリーズ販売開始
- 1973年（昭和48年）、 コーヒークリーム用シリーズ販売開始
- 1982年（昭和57年）、 CI（企業理念）導入、社章（日の出マーク）制定
- 1985年（昭和60年）、 フィリング・トッピング用「メルファー」シリーズ販売開始
関係会社「太陽サービス株式会社」創立
- 1989年（平成元年）、 「ボックスナチュロン」石けんシリーズ販売開始
- 2003年（平成15年）、 HACCP認証取得（加工油脂）
- 2004年（平成16年）、 ISO9001:2000（食用加工油脂）取得
- 2006年（平成18年）、 「ボックスオリー」石けんシリーズ販売開始
- 2008年（平成20年）、 「ボックスベビー」石けんシリーズ販売開始
- 2009年（平成21年）、 エコアクション21 認証・登録
- 2011年（平成23年）、 RSPO加入
- 2013年（平成25年）、 FSSC22000（食用加工油脂）取得
SC認証（RSPO）取得
基礎化粧品シリーズ「素肌レシピ」オーガニック・コスメ販売開始
- 2014年（平成26年）、 ISO22716（化粧品GMP）取得（石けん・化粧品）
- 2017年（平成29年）、 創立70周年を迎える
- 2018年（平成30年）、 ISO9001：2008（石けん・化粧品）取得
- 2019年、創業100周年を迎える



太陽油脂株式会社